

新潟県花き振興協議会（新潟県）

協議会構成団体：新潟県花き球根振興協議会、新潟県花木振興協議会、全国農業協同組合連合会新潟県本部、(株)新花、にいがた花ゆめプロジェクト、新潟県グリーンサービス協会、(一社)JFTD新潟支部、新潟農業・バイオ専門学校、新潟県、他

対象品目

切り花：チューリップ
ユリ



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・物流改善への意識を高めることを目的として、花き生産者や産地の集出荷担当者、流通業者等関係者を対象に、物流施策大綱や花き流通の標準化ガイドライン、日本花き卸売市場協会での取組についての理解促進を図り、課題の把握や対応等を検討した。

- ・検討会には、生産者、産地JA、物流業者等48名が出席。
- ・参加者からは、「産地側も問題として捉えるべきと感じた」、「荷主・物流業者の連携が必要」との反応が多く聞かれたほか、「物流業者として、荷主からの歩み寄りを待つだけでなく、荷主により一層協力を仰ぎたい」、「出荷箱の統一のためには、出荷規格を変える必要がある」などの反応もあった。



検討会の様子

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・花きの消費量が長期的な減少傾向にある中、県内外から多くの方が訪れる道の駅において、会場内花き装飾やチューリップ切花コンテストなどを行い、花きの需要拡大、県産花きのPRを図った。また、県産花きの新たな需要開拓を目的として、実需者向け商談会を初めて開催した。

- ・来場者アンケート（560名）の回答等から、新潟県がチューリップ切花の名産地であることを知った、自分で花きを購入したい等の感想が数多く聞かれ、県産花きのPRにつながった。
- ・商談会に参加した生花店（全24店舗）の売上高（R6.1～6、前年同月比）は、99.6～112.5%となった。チューリップなどの県産花きと、県産特産品を組み合わせた花きアレンジメント作品などの商品について商談が3件成立した。



会場ステージのチューリップ装飾

3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・ユリ切り花生産において、生花店段階で糖質と抗菌剤が主成分の品質保持剤を処理することにより、一層の品質向上が期待されるため、オリエンタル系ユリ切り花での効果について実証試験を行った。

ユリ切り花への品質保持剤の処理により、以下の品質向上効果が得られることを明らかにした。

- ・花弁長の伸長
品種「シイラ」の第4小花で花弁長が15%伸長（10cm→11.5cm^注）
- ・上位小花の開花率向上
品種「ディアンサ」の第5小花が全て開花（開花率が83%向上：17%→100%^注）



「ディアンサ」第5小花の開花率向上（開花試験 7日目）
左：無処理（蒸留水） 右：F液+ショ糖

注）いずれも無処理（蒸留水）区との比較

< 今後の取組予定 >

- ・産地で課題となっている集出荷のデジタル化や遠隔地への輸送にかかる中継拠点の確保等に向けた対応を検討する。
- ・各種イベント開催を通じて家庭でも取り入れやすい花き展示を行い、花のある暮らしの提案、若年層や新規購入層等、花きの購入層の裾野の拡大を図る。
- ・実証した品質保持技術の普及を進め、県産花きの品質向上・安定供給につなげる。

石川県花き振興地域協議会（石川県）

協議会構成団体：石川県花き園芸協会、金沢総合花き株式会社、株式会社金沢花市場、石川県花商事業協同組合、金沢公設花き小売商組合、石川県生花小売商協同組合、北陸園芸商組合、（一社）JFTD石川支部、（公社）NFD石川県支部、全国農業協同組合連合会石川県支部、金沢市公設花き地方卸売市場、石川県農林水産部

対象品目

切り花：エアリーフローラ
切り花葉ボタン



エアリーフローラ（フリージア）



切り花葉ボタン

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

〔流通の効率化に資する技術実証〕

・エアリーフローラ、切り花葉ボタンにおいて、出荷箱の資材費削減とT11パレットを導入した積載方法への対応を目的に、出荷箱のサイズを見直し、小型化する実証を行った。

・エアリーフローラは、出荷が多くなる3～4月は高温で、花の日持ち日数が短くなることから、県外へのお荷時に品質が落ちることが問題となっていた。そこで、バラやカスミソウ等で効果が明らかとなっている予冷の処理が、エアリーフローラの日持ち性に及ぼす影響について試験を実施した。

併せて、切り花用の品質保持資材（梱包資材）の使用による日持ち性に及ぼす影響についても試験を実施した。

< 取組の成果 >

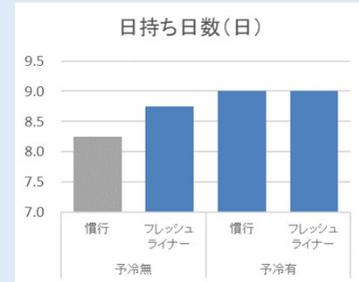
・出荷箱の小型化については、資材費は約3%削減できることが分かった。一方で従来の出荷箱よりも高さが小さくなったことで、積み方によっては一部箱の変形が発生してしまうため（商品への影響は無し）、2～3段切りで交互に積む必要があることが分かった。

・エアリーフローラの予冷処理による実証では、水揚げ後に出荷箱に入れ、4℃で3時間の予冷を行うことで、日持ち日数が、従来の8.3日から9日間に伸びることが分かった。

品質保持剤の使用による日持ち性への影響については、予冷を実施する場合は、従来の梱包方法と品質保持剤の利用区で日持ち日数が同等であったため、品質保持剤が無くても、予冷のみを実施することで日持ち日数が増加することが分かった。



新しい出荷箱での出荷の様子



日持ち性の実証結果



セミナーの様子

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

〔花き消費拡大のための社会人向けセミナーの開催〕

・石川県内の花き購入金額の増加を図るため、中学生以下の子供を持つ社会人を対象に、エアリーフローラのアレンジメントセミナーを開催した（子供も同伴可能）。

・エアリーフローラアレンジメントセミナーには、300組が参加。セミナー終了から3か月後に参加者へアンケートを実施した結果、セミナー体験後に家庭で花の話題が出たと回答した人の割合は97%であった。体験後の感想には、「エアリーフローラという名前を覚えた」、「日に日に咲いていくのを観察した」という声があり、セミナーの開催が県産花きの知名度の向上に繋がった。さらに、セミナーで作成したアレンジメントのお世話をしている人は28%が参加者の子供であり、親子で取り組むことで、子供の花への関心の高まりが期待される。

< 今後の取組予定 >

- ・T11パレットの導入について、流通関係団体と検討
- ・長期間輸送において品質が低下しやすい切り花葉ボタンの品質保持技術について実証予定
- ・R5事業において、成果が大きかった「中学生以下の子供がいる社会人」をターゲットにした、花きのアレンジメントセミナーの実施

福井県花き連絡協議会 (福井県)

協議会構成団体：県内各花き生産組織、福井中央花卉市場、花一（仲卸）、福井県花商協同組合（小売）、福井県華道協会、日本フラワーデザイナー協会福井県支部、ふくいの園芸福祉研究会、日本生花通信配達協会福井県支部、フジテレビフラワーネット福井県支部、福井県農林水産部、JA福井県 他

対象品目

切り花：キク
スイセン



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- キクにおいて、日持ち性の低下が原因とみられる品質低下を改善するため、鮮度保持包装材の複数年連用による日持ち性への影響について生産者レベルでの実証を行った。

- 新品と2回使用した鮮度保持包装材の日持ち性に差はみられず、連用は可能であることが確認できた。
- 生産者レベルでの実証で、出荷先の市場、実需者からのクレームはなかった。
- 技術の導入により、鮮度保持包装材のコストを削減でき、短径ギクの流通経路間における資材費は約14%低減した。



3週間低温で鮮度保持包装材を処理した後に切り花を生けた場合の観賞価値喪失時の状況 (左：新品、右：2年使用した再利用品)

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- みどりと花の県民運動大会において、フラワーアレンジメントや寄せ植え体験を開催し、花の魅力や楽しみ方を伝えることで消費拡大プロモーション活動を行った。
- 県内の学校や公民館等と連携しながら、社会人、学生等の若い世代を対象にしたフラワーアレンジメントや寄せ植え等の花育体験を実施した。

- イベント直後に実施したアンケート調査の結果では、参加者264名のうち256名(97%)が購買意欲を喚起され、県産花きの利用促進が啓発された。
- 花育体験直後に実施したアンケート調査の結果では、花育体験の満足度は91%となった。また、体験から1か月後に実施したアンケート調査結果では、月の平均購買回数について、1.07回(花育体験前)から1.87回(花育体験後)に増加した。



フラワーアレンジメント体験

3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- 実需者から要望のある彼岸向けの短径ギクを導入するため、需要期出荷が可能な品種について、開花期や切り花品質等の現地適応性について実証を行った。
- 「越前水仙」のブランド名で知られるニホンスイセンで、日持ち性向上のための品質管理技術の実証を行った。

- 赤2品種、白3品種、黄2品種、計7品種の中から、開花期が安定し、現地適応性のあった白1品種、赤1品種、計2品種を有望品種として選定した。しかしながら病害虫抵抗性においては検討が不十分であり、今後の課題となった。
- 品質保持剤による処理に加え、キクで効果のあった鮮度保持包装資材の使用により、水道水のみ比べて日持ち日数が2～3日延長された。



花匠

選定された品種

新三

< 今後の取組予定 >

- 鮮度保持包装材の連用については、生産者への周知を進め、更なる導入を図る。
- 花育については、次年度以降これまで実施しなかったエリアでの開催を進めることで、効果の更なる波及を目指す。
- 品種選定については、彼岸向け短径ギクについて、病害耐性に重きを置いた品種比較実証を行うほか、トルコギキョウの立ち枯れ病耐性に重きを置いた品種比較実証を行う。